



## 2025年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年2月14日

上場会社名 株式会社フォーシーズHD 上場取引所 東  
コード番号 3726 URL <https://www.4cs-holdings.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 寺田 智美  
問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長 (氏名) 松野 博彦 (TEL) 092-720-5460  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 有  
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年9月期第1四半期の連結業績(2024年10月1日~2024年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年9月期第1四半期	615	7.3	△9	—	△3	—	△5	—
2024年9月期第1四半期	573	23.8	△32	—	△33	—	△38	—

(注) 包括利益 2025年9月期第1四半期 △5百万円(—%) 2024年9月期第1四半期 △38百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2025年9月期第1四半期	円 銭 △0.59	円 銭 —
2024年9月期第1四半期	円 銭 △4.77	円 銭 —

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2025年9月期第1四半期	百万円 2,618	百万円 1,167	% 44.5
2024年9月期	百万円 2,293	百万円 1,173	% 51.0

(参考) 自己資本 2025年9月期第1四半期 1,164百万円 2024年9月期 1,170百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年9月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 0.00
2025年9月期	—	—	—	—	—
2025年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2025年9月期の配当予想につきましては未定です。

### 3. 2025年9月期の連結業績予想(2024年10月1日~2025年9月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,337	20.1	△64	—	△64	—	△74	—	△7.39
通期	2,799	24.0	7	—	8	—	7	—	0.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有  
新規 1社(社名) ファンタスティックフ、除外 1社(社名)  
オー第1号合同会社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2025年9月期1Q	10,077,670株	2024年9月期	10,077,670株
② 期末自己株式数	2025年9月期1Q	9,159株	2024年9月期	9,089株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2025年9月期1Q	10,068,569株	2024年9月期1Q	8,068,038株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は : 無  
監査法人によるレビュー

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想に関する記述は、当社が本資料の発表日現在で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、当社の事業を取り巻く市場動向等に関する様々な要因により、記述されている業績予想とことなる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
(4) 継続企業の前提に関する重要事象等	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(企業結合等関係)	11
(重要な後発事象)	12

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、12月に発表された日銀短観の業況判断（最近）によると、大企業においては製造業の業況判断DIは、前回調査から1ポイント改善され、製造業の業況の持ち直しを示す結果、非製造業の業況判断DIは、前回調査から1ポイント悪化し、人手不足の深刻化や米価を中心としたコストの増加、秋口以降の温暖な天候を受けた季節商材の需要の弱さ等から、小売や宿泊・飲食サービス等を中心に2四半期ぶりの悪化となっています。中小企業の業況判断DI（最近）は、製造業では前回調査から1ポイント改善、非製造業は2ポイントと2四半期連続の改善となり、中小企業の業況の持ち直しを示す結果となっております。堅調な市況を背景とした業績の改善期待や、夏場の急激な円高が落ち着いたこと等が持ち直しにつながった可能性があり、非製造業では、物価高や人手不足が深刻化する中でも、夏場の自然災害による下押しの解消が宿泊・飲食サービス等のサービス業種にプラスに作用し、改善につながったとみられています。

先行きについては、大企業・中小企業においては製造業では米国トランプ次期大統領による通商政策の不確実性の高まりや日系メーカーへの悪影響、非製造業では人手不足の深刻化や金利上昇への警戒感等から、いずれも慎重な見通しとなっています。

このような状況下のもと、当社グループにおきましては業績回復に向けて、各セグメントそれぞれの営業スタイル特性に合わせた施策を積極的に推進しておりましたが、当第1四半期連結累計期間の経営成績は、「通販事業」「卸売事業」におきましてはセグメント利益となり、上場維持費等各セグメントへの配賦が困難な管理部門経費はコスト削減等の効果もあり予測どおりとなっております。しかしながら、「リテール事業」におきましては売上が予測から大きく落ち込んだこと、「コンサルティング事業」における太陽光発電所のコンサルティング業務での物件の工事進捗が予定より遅れている状況があることから、当第1四半期連結累計期間におきましては、売上高615,067千円（前年同四半期比7.3%増）となり、営業損失9,123千円（前年同四半期は営業損失32,902千円）、経常損失3,058千円（前年同四半期は経常損失33,587千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失5,903千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失38,496千円）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### (通販事業)

通販事業は社内コールセンターでの電話オペレーターによる販売とEC販売にて構成されております。通販事業におきましては、売上高310,721千円（前年同四半期比17.0%増）、セグメント利益48,562千円（前年同四半期比7.5%増）と前年同四半期を上回りました。

通販事業の今期の施策としては、電話オペレーター販売においては、コールセンターを活かした他社との業務提携による収益の拡大、当社顧客への他社商品・サービスの販売による収益拡大を目指しております。リピート顧客及び掘り起し顧客へのアプローチを徹底的に継続し安定的な売上・利益の実績をつくることができていることと、さらに電話での販売スキルを武器に他社商材や架電代行業務を行うなど積極的な展開を進めております。EC販売においては、モール販売の強化、SNSの活用や広告配信などにより全ブランドの認知度向上と新規顧客開拓を図り、売上拡大につなげています。中でも「AROMA BLOOM」においては、ECモールでの施策を活発化するとともに、売上・認知拡大を積極的に進めており売上増及び利益化が実現できるようになっております。また、子会社の株式会社i i yが展開する「CHARM MAKE BODY」はSNSやブランド戦略を積極的に行い、順調に売上を伸ばしております。以上の結果、通販事業全体としては、売上高、セグメント利益については前年同四半期よりも上回る結果となり、計画通りに推移し安定的な黒字化体制を確立することができております。

(卸売事業)

卸売事業は国内卸売事業と海外卸売事業にて構成されております。卸売事業におきましては、売上高142,008千円(前年同四半期比16.8%増)、セグメント利益53,152千円(前年同四半期比17.4%増)と前年同四半期を上回り、特にセグメント利益は大きく伸長しました。卸売事業の今期の施策としては、国内外における当社取扱ブランド商品の販路拡大を目指しております。すでに実績のある「Cure」ブランドについては、国内外の人気ユーザーによるプロモーション活動の効果も大きく売上、販路を順調に拡大しております。当該四半期において、ベトナムでの販路拡大として実績をつくることができ、現地で行いましたイベントの効果もあり今後の売上拡大を見込んでおります。

「FAVORINA」「FINE VISUAL」「AROMA BLOOM」につきましては、国内卸売事業・海外卸売事業とも認知拡大を目的としたプロモーション活動を継続しており、それぞれ順調に進んでおります。ボディケアカンパニーのファイテン株式会社との共同企画商品「アロマブルーム メタックスアロマティックローション」は、生活雑貨の専門店のロフトや大手ドラッグストア等での販売店を拡大しております。以上の結果、卸売事業全体としては、売上高・セグメント利益は前年同四半期を上回る結果となりました。

(リテール事業)

リテール事業はAROMA BLOOMの店舗運営事業にて構成されております。リテール事業におきましては、売上高149,381千円(前年同四半期比14.4%減)、セグメント損失784千円(前年同四半期はセグメント損失8,630千円)と損失額は大きく改善はされておりますが、引き続き損失となりました。

今期の施策としては、新規顧客獲得強化による新たな顧客層の獲得とリピート率を高めることによる客数の向上と原価率と人件費率を改善することによる利益体質の改善を目指しております。会員獲得施策として導入しているアプリ会員については毎月3,000件程の新規会員様をコンスタントに獲得し、LINEアカウントの登録者数も8万人を超えクーポンの配信等で来店数の増加やリピート率及び単価の向上につながっております。その結果、リピーター率や客単価につきましては順調に伸びているものの、プレゼント商戦となる12月が前年度を下回る結果となり予測を下回りました。引き続き赤字体質の脱却を図るため、地域特性に合わせたMD(ブランド、店舗、顧客)コンセプトを見直すことによる店舗スタイルの見直し、顧客情報の獲得のためのツール導入による再来店アプローチの強化、仕入れ価格の交渉及びOEM製品開発による原価率の改善により早期に業績の拡大と黒字化を目指してまいります。

(コンサルティング事業)

コンサルティング事業におきましては、売上高12,956千円(前年同四半期比16.6%増)、セグメント損失9,120千円(前年同四半期はセグメント損失8,074千円)となり、前年同四半期に対しては大きく下回る結果となりました。

今期の施策としては、2024年5月に実施した第三者割当による新株式発行によって調達した資金387百万円を元手に太陽光発電事業における太陽光発電所を継続的に購入取得し販売、子会社の株式会社HACC Pジャパンにて衛生関連商材の販売や衛生に対するコンサルティングのセミナーを実施することを目指しております。

前連結会計年度の第3四半期より、早期の黒字化実現のため、事業の取捨選択をする中で社内のリソースを太陽光発電事業のコンサルティングへシフト変更いたしました。太陽光発電事業の売上・利益につきましては、物件の工事進捗に遅れが発生している状況がありますが、第2四半期連結会計期間以降で計上となる予定です。

## (2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況

### (資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産の残高は2,618,429千円(前連結会計年度末2,293,574千円)、その内訳は流動資産2,175,775千円、固定資産442,653千円となり、前連結会計年度末に比べ324,854千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の減少701,631千円、売掛金の減少13,829千円、商品及び製品の増加75,707千円、前渡金の増加981,978千円、短期貸付金の減少40,000千円、流動資産その他の減少78,779千円、無形固定資産の取得による増加87,157千円、投資その他の資産の増加23,679千円等によるものであります。

### (負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債の残高は1,450,962千円(前連結会計年度末1,120,170千円)、その内訳は流動負債1,062,587千円、固定負債388,374千円となり、前連結会計年度末に比べ330,792千円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加31,827千円、短期借入金の減少170,000千円、1年内返済予定を含む長期借入金の増加29,394千円、未払金の増加350,960千円、前受金の増加212,023千円、未払法人税等の減少16,778千円、株主優待引当金の減少9,701千円、債務保証損失引当金の減少81,500千円によるものであります。

### (純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の残高は1,167,466千円(前連結会計年度末1,173,403千円)となり、5,937千円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失5,903千円の計上により利益剰余金が減少したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年9月期の連結業績予想につきましては、2024年11月14日に公表いたしました、業績予想に変更はありません。

## (4) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは第18期連結会計年度より、継続企業の前提に関する重要な疑義を解消する施策を実施してまいりましたが、通販事業と卸売事業では、黒字化の収益体制が確立できているものの、リテール事業とコンサルティング事業におきましては、引続き営業損失が続いている状況となっております。当社グループの事業運営は、営業黒字、プラスの営業キャッシュ・フローを達成することができず、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

このような状況のもと、これらを解消するため以下の対応策を進めてまいります。

### (対応策)

#### 1. 通販事業

- ① コールセンターを活かした他社との業務提携による収益の拡大
- ② 当社顧客への他社商品・サービスの販売による収益拡大

#### 2. 卸売事業

- ① 国内外における当社取扱いブランド商品の販路拡大

#### 3. リテール事業

- ① 新規顧客獲得強化による新たな顧客層の獲得とリピート率を高めることによる客数の向上
- ② 原価率と人件費率を改善することによる利益体質の改善

#### 4. コンサルティング事業

- ① 2024年5月に実施した第三者割当による新株式発行によって調達した資金387百万円を元手に太陽光発電事業における太陽光発電所を継続的に購入取得し販売
- ② 子会社の株式会社HACC P ジャパンにて衛生関連商材の販売や衛生に対するコンサルティングのセミナーを実施

#### 5. コスト削減又は効率的配分の徹底

- ① 経費削減活動の徹底を継続

② 販売スタイル別のセグメントへの変更や生産部門統一化による、効率的かつ効果的なコスト配分の徹底

6. 成長企業・事業のM&A及び資金調達

「はずむライフスタイルを提供し、人々を幸せにする」というミッションのもと、既存事業における美と健康の分野にて、他社との事業提携を行い商品開発・新ブランドの展開を行う。他社の商品についても、通信販売やリテール販売で、当社の販路を活用し収益を拡大する。美と健康と生活における癒しをテーマとした生活を豊かにするサービスを提供する事業を想定したエンジョイライフ分野におけるM&Aを積極的に推進し、新たな資金調達を検討しております。

当第1四半期連結会計期間末の現金預金は前連結会計年度末と比べて大幅に減少しておりますが、再生可能エネルギー事業への投資のため一時的に減少していることが要因です。

以上より、継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象または状況が存在しているものの、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年9月30日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	836,658	135,026
売掛金	169,015	155,186
商品及び製品	338,064	413,771
原材料及び貯蔵品	31,963	35,059
前渡金	399,205	1,381,183
短期貸付金	40,000	—
その他	134,354	55,575
貸倒引当金	△105	△26
流動資産合計	1,949,157	2,175,775
固定資産		
有形固定資産	332	288
無形固定資産		
のれん	186,153	266,426
顧客関連資産	79,772	74,454
その他	471	116
無形固定資産合計	266,396	340,996
投資その他の資産	77,688	101,368
固定資産合計	344,416	442,653
資産合計	2,293,574	2,618,429
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	70,341	102,168
未払金	57,204	408,165
短期借入金	200,000	30,000
1年内返済予定の長期借入金	75,084	39,801
1年内償還予定の社債	200,000	—
前受金	128,625	340,649
未払法人税等	29,801	13,022
ポイント引当金	3,640	3,676
株主優待引当金	34,457	24,756
資産除去債務	14,489	11,339
その他	97,685	89,009
流動負債合計	911,329	1,062,587
固定負債		
社債	—	200,000
長期借入金	69,428	134,105
繰延税金負債	14,300	10,950
資産除去債務	41,080	41,082
債務保証損失引当金	81,500	—
その他	2,533	2,236
固定負債合計	208,841	388,374
負債合計	1,120,170	1,450,962
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,586,822	1,586,822
資本剰余金	1,076,178	1,076,178
利益剰余金	△1,489,248	△1,495,151
自己株式	△2,938	△2,972
株主資本合計	1,170,814	1,164,877
新株予約権	2,588	2,588
純資産合計	1,173,403	1,167,466
負債純資産合計	2,293,574	2,618,429



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2023年10月1日 至2023年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2024年10月1日 至2024年12月31日)
売上高	573,420	615,067
売上原価	203,520	204,638
売上総利益	369,899	410,429
販売費及び一般管理費	402,802	419,552
営業損失(△)	△32,902	△9,123
営業外収益		
受取利息	1	163
受取手数料	1,363	1,363
貸倒引当金戻入額	—	5,991
その他	121	246
営業外収益合計	1,486	7,764
営業外費用		
支払利息	1,142	965
社債利息	504	504
その他	525	229
営業外費用合計	2,171	1,699
経常損失(△)	△33,587	△3,058
税金等調整前四半期純損失(△)	△33,587	△3,058
法人税、住民税及び事業税	8,836	6,411
法人税等調整額	△3,927	△3,565
法人税等合計	4,908	2,845
四半期純損失(△)	△38,496	△5,903
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△38,496	△5,903

四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)
四半期純損失(△)	△38,496	△5,903
四半期包括利益	△38,496	△5,903
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△38,496	△5,903
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当社は、2024年11月28日に公表しておりますとおり太陽光発電の物件を長期保有することを目的とし、管理面の観点より子会社を設立することを決議し、2024年12月2日にファンタスティックフォー第1号合同会社を設立いたしました。これに伴い当第1四半期連結累計期間において同社を連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号2022年10月28日)等を当第1四半期連結累計期間の期首から適用しております。これによる当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

前第1四半期連結累計期間(自 2023年10月1日 至 2023年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	通販事業	卸売事業	リテール 事業	コンサルテ ィング事業	計				
売上高									
顧客との契約から生じる収益	264,011	121,593	174,500	11,054	571,159	2,260	573,420	—	573,420
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	264,011	121,593	174,500	11,054	571,159	2,260	573,420	—	573,420
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,456	—	—	61	1,517	—	1,517	△1,517	—
計	265,467	121,593	174,500	11,115	572,677	2,260	574,937	△1,517	573,420
セグメント利益又は損失(△)	45,166	45,291	△8,630	△8,074	73,752	△5,278	68,473	△101,376	△32,902

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規事業の可能性を判断するためのテストマーケティングを含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額101,376千円は、全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2024年10月1日 至 2024年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	通販事業	卸売事業	リテール 事業	コンサルテ ィング事業	計				
売上高									
顧客との契約から生じる収益	310,721	142,008	149,381	12,956	615,067	—	615,067	—	615,067
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	310,721	142,008	149,381	12,956	615,067	—	615,067	—	615,067
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	310,721	142,008	149,381	12,956	615,067	—	615,067	—	615,067
セグメント利益又は損失(△)	48,562	53,152	△784	△9,120	91,810	—	91,810	△100,933	△9,123

- (注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規事業の可能性を判断するためのテストマーケティングを含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額100,933千円は、全社費用等であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自 2024年10月1日 至 2024年12月31日）

（事業譲受による資産の著しい増加）

当第1四半期連結累計期間において、子会社のファンタスティックフォー第1号合同会社が株式会社ネクスタより事業を譲受いたしました。これにより、前連結会計年度の末日に比べ、「コンサルティング事業」のセグメント資産が868,587千円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自 2024年10月1日 至 2024年12月31日）

（のれんの金額の重要な変動）

当第1四半期連結累計期間に、子会社のファンタスティックフォー第1号合同会社が株式会社ネクスタより事業を譲受したことにより、のれんを計上しております。

当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては、87,157千円であります。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

（セグメント情報に関する重要な変更）

当社は2024年5月10日の取締役会において、再生可能エネルギー事業へ参入することを決議し、セグメント名について「衛生コンサルティング事業」を前第3四半期連結会計期間より「コンサルティング事業」へ名称を変更いたしました。当該セグメントにおいてはグループ経営方針として引続き海外展開、M&Aを積極的に進め、新たな事業の柱を増やしていくことを目指し、事業を拡大してまいります。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しております。

（キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2024年10月1日 至 2024年12月31日）
減価償却費	5,736千円	5,716千円
のれんの償却額	6,884千円	6,884千円

（企業結合等関係）

（事業譲受）

1. 事業譲受の概要

（1）相手企業の名称及びその事業の内容

相手企業の名称 株式会社ネクスタ  
事業内容 太陽光発電所の土地権利事業

（2）事業譲受を行った主な理由

当社は、2024年11月28日に公表しておりますとおり太陽光発電の物件を長期保有することを目的とし、管理面の観点より子会社を設立することを決議し、2024年12月2日にファンタスティックフォー第1号合同会社を設立いたしました。当社はグループ経営方針として新たな事業の柱を増やしていくことを方針の一つとしており、2024年5月10日に新たな事業として再生可能エネルギー事業への参入を公表し2050年のカーボンニュートラル実現に向けて事業参入をいたしました。今回事業譲受を行う物件については、子会社のファンタスティックフォー第1号合同会社が株式会社ネクスタより事業を譲受いたしました。

（3）事業譲受日

2024年12月25日

(4) 事業譲受の法的形式

現金を対価とする事業譲受

2. 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれている譲受事業の業績の期間

2024年12月25日から2024年12月31日まで

3. 譲受事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	689,584千円
取得原価		689,584千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

該当事項はありません。

5. 発生するのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

87,157千円

なお、のれんは取得原価の配分が完了していないため、上記取得原価は暫定の金額であります。

(2) 発生原因

今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力から発生したものであります。

(3) 償却方法及び均等償却

1年間にわたる均等償却

6. 事業譲受日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	775,030千円
固定資産	6,377千円
資産合計	781,407千円
流動負債	178,980千円
固定負債	—
負債合計	178,980千円

7. 企業結合日が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及び算定方法

影響の概算額については、合理的な算定が困難であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。